

昭和五十五年四月

平城宮発掘調査出土木簡概報(十三)

奈良国立文化財研究所

この概報には、さきに公刊した『平城宮発掘調査出土木簡概報十二』（昭和53年4月）以後、平城宮跡および平城京内から出土した木簡の主要なものを収録する。

以下、木簡の出土地域ごとの状況を述べ、木簡の形態分類、凡例と釈文をかかげる。

一、木簡出土の地点と状況

第一一〇次調査（GALF区） 昭和53年6月～11月

発掘区は平城宮東院南部に位置し、これに東接する地域は第44次調査（GALG・LF）・第99次調査（GALF）で大規模な庭園遺構を検出し、奈良時代の新旧二時期にわたる園池の造替を確認している。

調査の結果、この地区では下から順にA～D期、E期、F～G期の三層に大別できる整地層とA期以前の、八時期にわたる遺構の変遷が明らかになった。

遺構は複雑に重なっており、各期の年代は未確定であるが、A期以前は和銅年間に、A期は東面築地大垣造営期、B期は旧池が開設される養老年間以前、E期は新池造営の

天平勝宝年間にそれぞれ推定されている。

おもな検出遺構には礎石建物四棟・掘立柱塀五条・溝一条・石敷道路四条がある。

出土木簡総数は六六点であり、そのうち二〇点はA期以前の土壙SK 9090から、八点は斜行古溝SD 9041から、九点はC期又はD期の南北溝SD 9092から出土している。

その他、B期の東西棟SB 9068・掘立柱塀SA 9063、C期の掘立柱塀SA 9060、E期の南北棟SB 9075・東西棟SB 9076等の柱掘形や整地土中からも若干の出土を見た。

SK 9090は、発掘区中央東よりのA期以前の土壙であって、ここから出土した木簡は大部分が断片や腐蝕したもので、釈読できるものは少ない。年紀を記した木簡はないが、参河国碧海郡の里名を列記したと考えられる木簡が含まれており、その表記の仕方から和銅年間頃と推定される。

SD 9092は発掘区の東北端から検出された素掘りの浅い南北溝である。性格は不明であるが、層位と建物の配置から見てC期又はD期に属すると考えられる。木簡は一九点出土したが削屑が多い。

SD 9041はA期以前の溝で、埋土中から平城宮Ⅰ・Ⅱ期

の土器が出土した。木簡は八点出土したが、いずれも釈読は困難である。なお、A期と考えられる柱根に「雇工春日刀良」と記したものがあつた。

(四)、(五)参照)

第一一二次調査 (GABG・BH・BT・BU区)

昭和53年4月～7月

発掘区は推定第一次朝堂院地区に位置し、第一〇二次調査地の南に続く場所である。

調査の結果検出された遺構は、礎石建物一棟(推定東第二堂)、掘立柱建物一棟、掘立柱塀一条、築地塀一、溝一二条などである。東第二堂は前回の調査結果と合せて、梁間四間、桁行一二間以上の規模をもち、さらに南にのびることが明らかとなった。

木簡は発掘区の東辺で検出した平城宮中央部の基幹排水路である南北溝SD3715と発掘区東端で検出した土壌SK8948から出土した。木簡はSD3715から一三三点、SK8948から一点、合計二四点出土した。なおSD3715は第四一次調査(昭和42年)、第九七次調査(昭和51年)および第一〇二次調査(昭和52年)にも検出し、木簡はそれぞれ七六九点、一六五点、三〇点出土している。〔木簡概報〕五、

第一一七次調査 (GABQ区)

発掘区は平城宮推定第一次内裏地区の東北隅に位置し、朝堂院の東辺をかざる築地廻廊SC8360・掘立柱塀SA3777等の他、井戸SE9210・掘立柱建物SB9220等を検出した。木簡はSE9210から一点出土した。

第一一八次調査 (左京三条一坊一五坪)

(GAJ-V区) 昭和54年7月～8月

本調査は、ホテル建設に伴う事前調査として実施したものである。当該地は平城宮左京三条一坊一五坪の西端部分に相当し、平城宮第三二次調査で明らかにされた、二条大路と東一坊大路の交差点からは南へ約一五〇mに位置し、東一坊大路西側溝の存在が予測された場所である。

調査の結果、掘立柱建物三棟、土壙七、溝一二条、旧河川一条を検出した。

木簡の出土総数は一八点で、すべて東一坊大路西側溝のD3935から出土した。

東一坊大路西側溝は、調査区内では推定される溝幅の約三分の二（三、四m）を検出した。溝埋土は上下二層に大別される。木簡は下層から多量の木片と共に出土し、特に調査区北端部分からまとまって出土した。下層からは、木簡の他に和同開珎一枚、多量の奈良末期（平城宮V）と少量の長岡宮時代（平城宮VI）の土器も出土した。また上層からは九世紀前半の土器片が少量出土した。

出土した木簡は、文書風木簡、付札・習書等を含むが、いずれも断片あるいは削屑である。

第一一八―二二次調査 昭和54年12月

本調査は植樹祭のための市道拡幅に伴う事前調査として実施したものである。調査地は北新大池の池底で二条大路の南北両側溝の存在が予想された場所である。

木簡は南側溝SD4006から二点出土した。両方とも題籤と思われるもので、軸の木口部分に国名を記している。

第一一八―二三次調査（左京三条二坊七坪）

昭和54年12月

本調査は、マンション建設に伴う事前調査として実施したもので、当該地は左京三条二坊七坪の東南隅にあたり、約一六〇㎡について発掘した。

調査の結果、二坊坊間路の西側溝とその西約一・五mに南北溝一条、柱穴一、土壇一を検出した。坊間路西側溝は幅約二・五m、深さ〇・九m、溝の堆積は大きく二層に分れる。木簡を含めて、遺物は主に上層から出土した。

遺物は、木刀・儀仗用の弓・人形・削り掛け・曲物・多量の加工材等の木製品・平城宮I・II期の土師器・須恵器多数と瓦である。須恵器には、「主水司」・「国造少乃古」と墨書したものもある。

木簡は総数一八点出土したが、下層から出土したのは一点で他は上層からである。完形品は一点にすぎず、他は断片である。

第一二一次調査（左京三条二坊六坪） 昭和55年1月

調査地は、左京三条二坊六坪のほぼ北端にあたる。左京三条二坊六坪は第九六次調査（昭和50年）によって、奈良時代の庭園とそれに関連する建物跡とが検出され、昭和51

年12月に宮跡庭園として特別史跡に指定された場所である（『平城京左京三条二坊六坪発掘調査概報』昭和51年3月、奈良国立文化財研究所参照）。

今回の調査は、前回未調査のまま残された園地への導水路の部分について行なった。

導水路は三層に分けられる。出土木簡総数は三八点で、その内訳は、上層から出土したもの五点、中層からが一点、下層から出土したものが三二点である。紀年銘をもつものは、和銅三年の一点のみである。同所からは「侍従」と墨書された須恵器も一点出土した。

第一一八一—三〇次調査（阿弥陀浄土院跡）昭和55年2月

発掘調査は法華寺旧境内の西南部分にあたり、阿弥陀浄土院跡と推定されるところで行なった。調査は共済組合職員宿舎の外縁工事の事前調査として行われたため、調査面積は六〇㎡にとどまった。検出した主要な遺構は、浄土院内の西辺で南北溝一条、また北辺では東西に流れる大溝、及び南北溝へ西から流れこむ木樋暗渠等である。木簡は、この木樋の中から多量の木片とともに一点出土した。

この南北溝と木樋とは奈良時代のものと判断されるが、東西大溝は平安末に埋められており、その造成時期は不明である。

二、木簡の形態分類

- 6011 型式 長方形の材。
- 6015 型式 長方形の材の側面に孔を穿ったもの。
- 6019 型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6011・6032・6051型式のいずれかと推定される。
- 6021 型式 小形矩形のもの。
- 6022 型式 小形矩形の材の一端を圭頭にしたもの。
- 6031 型式 長方形の材の両端の左右に切り込みをいれたもの。方頭・圭頭など種々の作り方がある。
- 6032 型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれたもの。
- 6033 型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖らせたもの。
- 6039 型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、

南北棟建物S B九〇七六

ID
73

081

• □^(申)

• 二□

南北棟建物S B九〇七五

IB
69

081

□大伴□人

三富

整地土

□通通通通□

IB
73

019

• 通通□□

大人人

• 具□□□□

臣成□

土壇S K九〇九〇

IJ
63

019

• 妹里

知□^(立)里

□ア里

長谷ア里

• □□里

青見里

• 前里

石寸里

IJ
63

091

六月□□^(毛)

□□^(郡)

下層整地土

IL
61

081

• □人□

• □^(根)原里人

BD
47
081
席
席

第一一八八次調査 (6AFJ-V)

東一坊大路西側溝SD三九三五

VL
09
081
川長秦稻東並稻

VM
09
039
丹波国綾部

VM
09
091
丹波国^永上郡

村六月万^屋戸口同

VM
09
019
雜腊

VM
09
081
不暑住 □□久□□

VM
09
081
曾祢吉人

VN
09
081
謹解申請

□□□□
□□□□

VN
09
091
家家^家

第一一七次調査 (6ABQ)

井戸SE九二一〇

AP
27
065
道□□□

道請□□

□□□□

第一一八一二次調査 (6APM)

二条大路北側溝SD四〇〇六

061
志摩^國□

061 □^(播)

第一一八次—二三次調査 (GAFI-R)

081 . □城 養素原

. 輕不 □

051 手枕里戸主无得津君千嶋一石

081 椎 □ □ 天 □

第一二一次調査 (GAFI-R)

導水路SD一五二五

QE 24 081 □後又意 富里

QE 24 081 □入奈加良 進出御帳 □ 辛 □^(横)

QE 24 059 . □蔬 □ □

. □ □ □ □ □

QE 24 011 . 竹野王子大許進米三升受稻 □

. 六日百嶋

QE 24 011 . 四月十四日記若 □ 進米二升

. □

QE 24 032 . 和銅三年四月十日阿刀

. 了志祁太女春米

QE 24 081 . 賣斐

. 止爲故長

QE 25 081 . □ □ □ □ □

. □ 濱

QE 26 033 . 遠江國石田郡 □ □ 万呂

五斗

QE 26 051 □ □ 了 □ □ □ □

QE 26 032 田官里俵

QE 26 039 . 北宮御物俵

. 阿須波里 □

QE 26 081 積

QE 26 081 . 四 □ □ □ □

. □ (北)

QE 26 051 . 從二升 □ □ □ 一升 □ □ 長三升 □ 長四升半

. 右一斗三升 □ 四月廿三日 □ 末呂

QE 26 033 □ □ □ □ □ (里)

第一一八一三〇次調査 (S B F K)

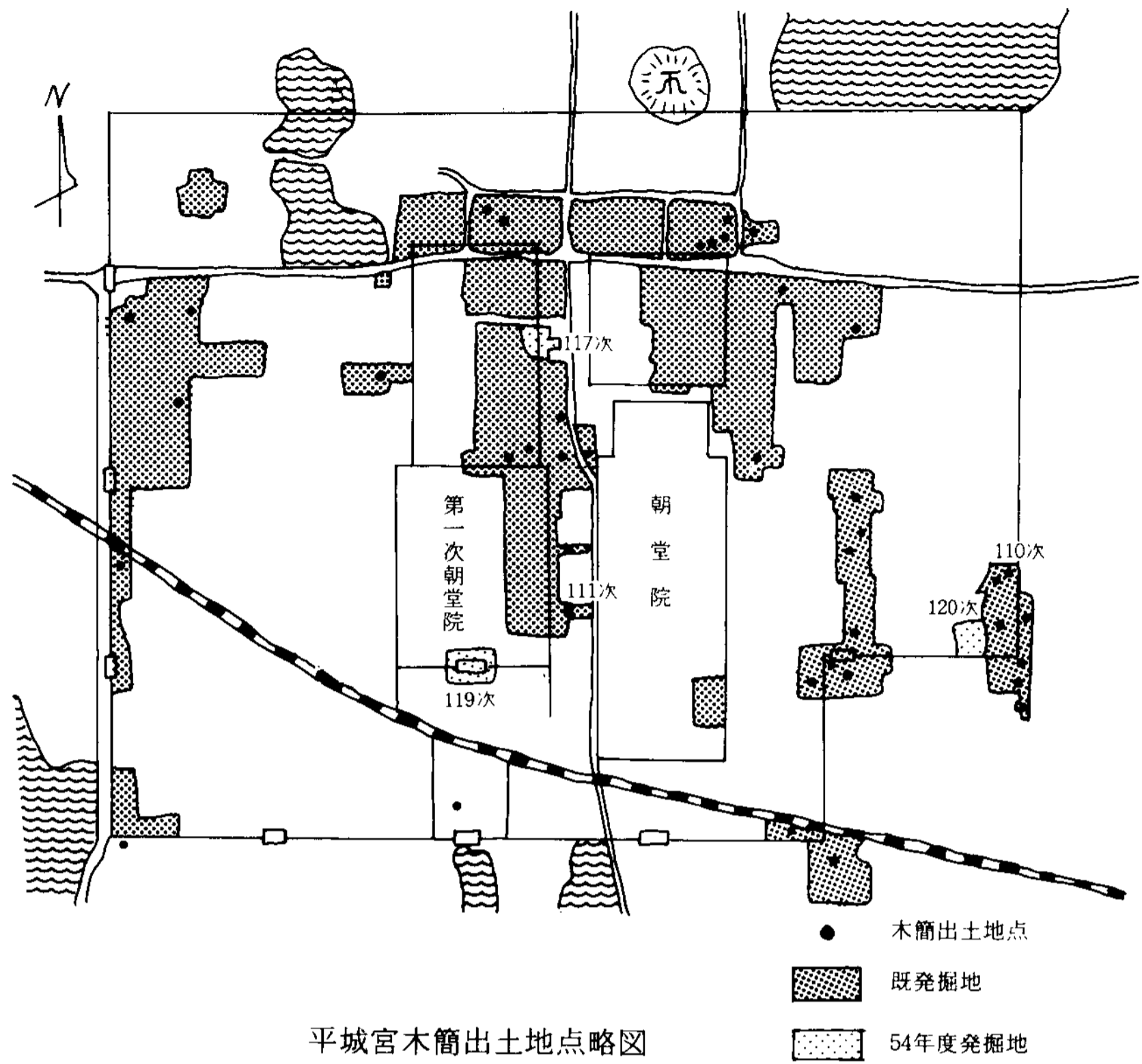
BR 43 019 . 霧寒尔 □ 豊繼

□ 久者 牟也

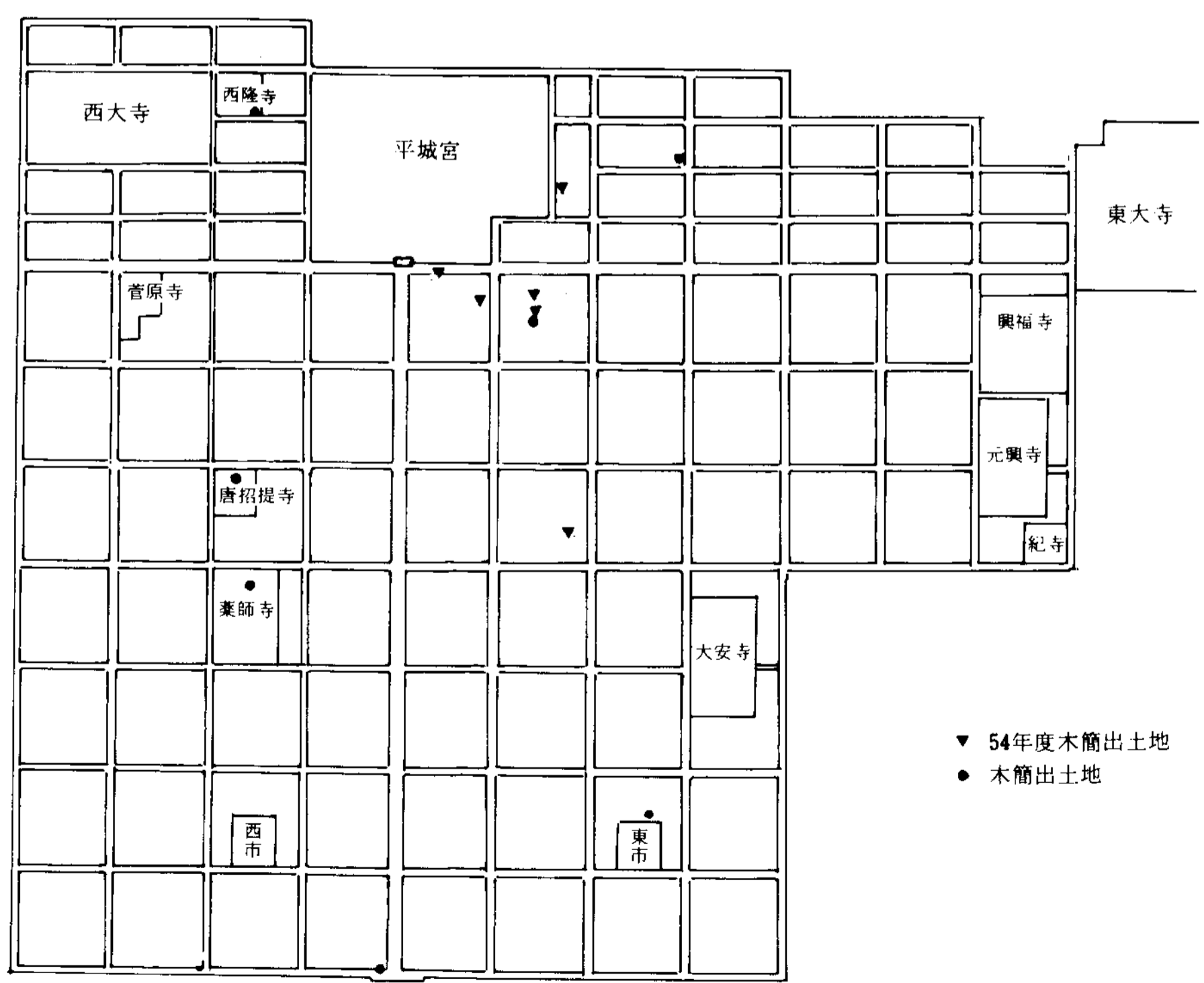
. 久利久者牟

夜 久利久者 □

牟夜



平城宮木簡出土地点略図



平城京木簡出土地点略図